美術館におけるガラス工芸の鑑賞と創作を支援するボランティア活動

学生団体名：工芸史研究会（金沢美術工芸大学）
参加学生：幸田美聡・原有樹（院 1)、古澤かおり・田辺陽子・田村奈実（学部 4）
小川玲美子・小嶋美里（学部 3)、大井奈津子・猿橋舞子・原田優子・福本悦子（学部 1）

１．地域活動の概要

石川県能登島ガラス美術館で開催された「ガラ美キッズ－1 日学芸員－」（平成 22 年 8 月 7・8 日）と「わくわくワークショップ－夏休みはガラス美術館で！透明おもちゃと遊ぼう－」（8 月 11～15 日）の二つのイベントにおいて，来館者が，「きれい」だけでは終わらない心に残るガラス作品との出会いを実感できるような，体験型の内容を工夫して，イベントの補助および主体的な実施を試みた。「1 日学芸員」では，美術館の見まわりや作品の調書作りなどの学芸員の仕事を体験する子どもたちをサポート。「透明おもちゃと遊ぼう」では，ガラス窓にジェル状のカラーシールや魚をかたどったセロハンをはり付ける「みんなで海をつくろう－ジンベエザメと仲間たち－」と題するワークショップを考案して実施した。これは，開催中の展覧会「ガラスの水族館」にちなむもので，のとじま水族館で同月 20 日から本物のジンベエザメが公開されることに着想を得たプランである。また，展覧会「ガラスの水族館」の団体鑑賞（8 月 6 日）におけるクイズ対応などの補助もあわせて行った。

なお，参加学生は金沢美術工芸大学の美術科芸術学専攻（学部・大学院）在学の計 11 名である。

２．地域活動の具体的な内容

【活動日程】

1　展覧会「ガラスの水族館」団体鑑賞
　8 月 6 日　館内クイズなどのサポート　　※参加者＝小学生 80 名＋大人付き添い 12 名
　[担当学生＝幸田・原・大井・福本・原田]

2　ガラ美キッズ－1 日学芸員－
　8 月 7 日　作品調書作りなどのサポート　※参加者＝小学生 13 名＋大人付き添い 17 名
　[担当学生＝幸田・原田]
　8 月 8 日　作品調書作りなどのサポート　※参加者＝小学生 6 名＋大人付き添い 7 名
　[担当学生＝幸田・原田]

3　透明おもちゃと遊ぼう
　「みんなで海をつくろう－ジンベエザメと仲間たち－」
　8 月 11 日　ワークショップの実施　　※参加者＝約 200 名
　[担当学生＝古澤・小嶋・猿橋・原田]
　8 月 12 日　ワークショップの実施　　※参加者＝約 150 名
　[担当学生＝古澤・小川・小嶋・猿橋・原田]
　8 月 13 日　ワークショップの実施　　※参加者＝約 200 名
　[担当学生＝古澤・小川・小嶋・猿橋]
　8 月 14 日　ワークショップの実施　　※参加者＝約 200 名
　[担当学生＝小川・小嶋・猿橋・田辺・田村]
　8 月 15 日　ワークショップの実施　　※参加者＝約 120 名
　[担当学生＝古澤・小嶋・猿橋・田辺・田村]

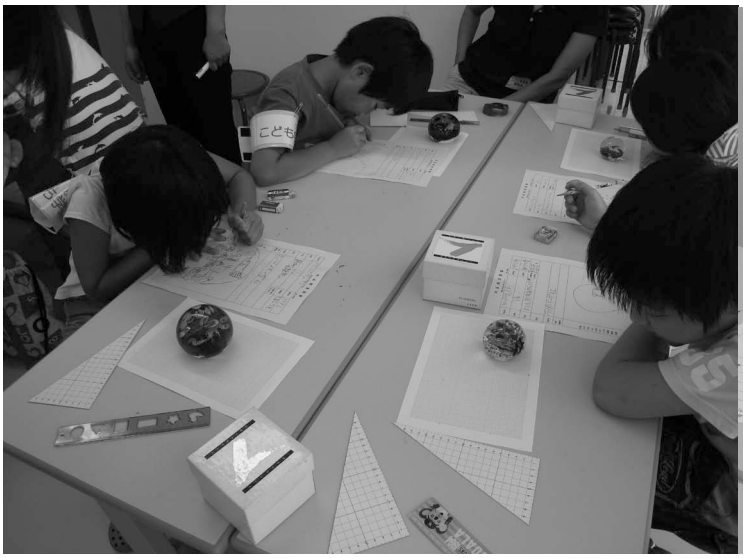
【活動内容とその様子】

１　展覧会「ガラスの水族館」団体鑑賞

団体鑑賞で館内をめぐりながらクイズを楽しむ子どもたち。学生スタッフは主にクイズ対応を行った。

２　ガラ美キッズ－1 日学芸員－

館内の見まわりや作品調書の作成を体験する子どもたち。学生スタッフは学芸員のサポートを行った。



３　透明おもちゃと遊ぼう

ワークショップ「みんなで海をつくろうージンベエザメと仲間たちー」

透明おもちゃで遊ぶ子どもたち。学生スタッフも一緒に遊ぶ。

ときどきご父兄の方が子どもより夢中になることも・・・。

学生スタッフと一緒にジェル状のカラーシールをはり付ける子どもたち。材料などを整える作業風景。

窓のそばに円筒を立てて水槽に見立てた。自由に書き込む子どもたち。そして完成したジンベエザメ。

展示場の窓にも進出してワークショップを展開。右は平成 22 年 8 月 14 日付の北陸中日新聞の記事。

県能登島ガラス美術館

窓にジンベエザメ悠々

シール張り 海をつくる

ガラス窓に魚をかたどったセロハンやシールを張り付ける「みんなで海をつくろう－ジンベエザメと仲間たち－」と銘打ったイベントが、七尾市の県能登島ガラス美術館で開かれている。十五日まで。

金沢美術工芸大の学生が企画した。小さな魚やクラゲ、ヒトデ、タコなどの形をしたセロハンや専用シールの切り抜きをたくさん用意。来場者に、ジンベエザメの姿になるように切り抜きをガラス窓に張り付けてもらう。海の中の雰囲気を出すために緑色のワカメなども準備した。

さいたま市の石村則子さん(23)と、長女で小学二年生の華菜さん(8)は、七尾市内の親せき宅に遊びに行く途中に同美術館に立ち寄りイベントに参加した。華菜さんは幼い時にジンベエザメを見たはずだが忘れてしまったといい「本物を見たい」と話していた。

同美術館の近くにある、のとじま水族館では二十日に本物のジンベエザメが泳ぐパノラマ大水槽がオープンする。（松田十郎）

シールを張ってジンベエザメの形をつくる児童＝県能登島ガラス美術館で

３．今回の地域活動の評価

今回の活動のうち，「わくわくワークショップ－夏休みはガラス美術館で！透明おもちゃと遊ぼう－」における「みんなで海をつくろう－ジンベエザメと仲間たち－」は，のとじま水族館でジンベエザメが公開されるのに先駆けて，一足お先に「ガラス美術館にジンベエザメが来た！」という空想を，窓ガラスに描いて表現しようというワークショップである。展示室近くの部屋「わくわくワークショップコーナー」で，透明おもちゃで遊び，その部屋の窓にジェル状のカラーシールや魚をかたどったセロハンをはり付ける。窓の側にはアクリル製のボードによる円筒を立ててマジックで自由に描けるようにした。そして、期間後半にはスペースを展示室の休憩ソファー横の窓に拡大した。ガラス美術館の今井学芸員のご指導のもとで，学生スタッフが主体的に内容を考案し，期間中は大半の時間帯を学生スタッフにまかせていただいた。5 日間で延べおよそ 870 名もの来館者がワークショップに参加したことから，とても多くの方々に楽しんでいただけてよかった，とホッとしている。来館者が，「きれい」だけでは終わらない心に残るガラス作品との出会いを実感できるような，そんな思い出づくりに少しは貢献できたと思うが，場を提供したあとの対応は受け身の要素が強く，工夫の余地が多く残されている。

４．今後，この地域活動を継続，活発化していくために必要なもの，及び課題

最も大きな課題は，何よりも主体性の向上である。前回も今回もともに美術館側のプログラムにおいて，学芸員のご指導をいただきながら行ったものであり，学生側からの提案という要素の割合が低い。準備の時間の確保して美術館への主体的な提案を行うことが，今後の継続のために必要である。

５．その他（学生や地域の方の感想等）

もともとは子ども向けに企画したワークショップのはずなのに，ご父兄の方が子どもそっちのけで夢中になったり，お孫さんを連れたおじいさんや若いカップルなど老若男女の幅広い層の方々が楽しんでくれた。それが意外で，とても新鮮で，嬉しかった。そして、大学で芸術学を学び，将来を考えるうえで参考となる貴重な経験ができたと思う。この場をお借りして，昨年度に引き続きご指導をいただきました今井学芸員をはじめ能登島ガラス美術館の方々に，心より御礼を申し上げます。